

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月31日

学) 町田きそ学園 境川幼稚園

1. 本園の教育目標

- じょうぶなからだ
- やさしいこころ
- よくかんがえるこども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 特別支援教育の充実を図る
- 保育内容の見直し、精選を行う
- 働き方を工夫し、子どもたちへの関わりを充実させていく

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	○特別支援教育の充実	C	昨年度に引き続き、特別支援は取り組むべき項目として挙がっている。様々な個性をもつ子どもたちへの対応は職員一同悩みながら進めている。補助者、環境、行事等、課題は多い。次年度は療育センターの講師の方から訪問支援を受け、皆で共通の対応をしていけるようにしていきたい。個別支援シートの作成についても助言、アドバイスをいただきたい。
2	○保育内容の見直し、精選を図る	C	見直ししたい点は多数あるが、1年間ではやりきれない。余裕がない。計画、作成のための時間を設定し、本腰を入れてやる必要がある。
3	○働き方を工夫し、子供たちへの関わりを充実させていく	C	子供たち一人一人の気持ちに寄り添いながら関わることができた。弛緩と集中、休養と労働、切り替えを自身で行い、気持ちに余裕をもって子供たちの前に立ちたい。働き方については特に大きな変化は感じられない、といった感想もあり。年度後半は特に行事も多く、早目の退勤を意識はするが難しい。働き方の改善や工夫は上記2と連動しているところがある。準備する時間、職員数等、見直しも必要。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
C	全教職員で重点目標を決めて取り組むことは、日々、共通な話題として取り上げることができ、視点が明確になり振り返りやすい。一つの目標に向けて皆で取り組むことの重要性を改めて痛感している。しかしながら、各評価項目の達成状況は芳しくない。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題 (R.5年度)

	課題	具体的な取り組み方法
1	特別支援教育の充実	今回の反省を受けて、取り組むべき課題も多い。引き続き、職員全体で特別支援教育について理解を深め、より良い関わりができるよう努めていく。市発達センターとの連携を深め、研修会や研究会への参加機会を増やす。また専門の講師の助言、アドバイスの機会を設定する。訪問支援は是非実現していきたい。個別支援シート作成等のサポートをいただく。
2	保育内容の見直し・精選と働き方の工夫	各学年の発達段階や実態に応じたものにしていく。満3歳児クラス定着で4年保育を見通した年間計画の作成。学年間共通の活動、事柄において、発達段階を考慮したつながりを具現化していく。働き方の工夫は上記の事柄実現により達成可能なことも多い。
3	ICT化・SNSの活用	園務管理ソフト導入により、保護者との連絡機能をスリム化し、仕事の効率化を図る。また SNS 等の活用は今後の幼稚園教育の充実に向けて避けては通れないものであり、早急に取り組んでいく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

認定こども園に移行して2年目、地域に根差し信頼される施設として、多くの方々から認められていると感じる。子育て世帯へ「園庭開放や子育て相談、子育て講座」は幅広く知らせていきたい。

学校関係者委員の方々に、令和4年度自己評価（教育目標と重点目標）の結果をもとにお話を伺った。また、東京都の「私立幼稚園教育水準向上支援事業補助」についてもあわせて評価をいただいた。

○特別支援教育の充実を図る

昨年度からの継続課題である「特別支援教育の充実」は苦心されている現状が伝わってくる。補助者、環境、保育内容等、課題を感じている職員も多いようだ。

専門の講師からの助言やアドバイスをいただける機会は勉強になる。「専門家を招いての訪問支援は是非とも依頼してみてもどうか。

個別支援シートの作成は園内で一人一人の成長を計画的に見取っていくことができる。それが小学校進学時においても貴重な参考資料になっていくと考えている。小学校等の様式を参考にしながら作成してほしい。

○保育内容の見直しと精選

時間のかかる作業であると思う。長期休業中に時間を作り、学年等で考えていくことが良いのではないだろうか。保育内容や題材、活動の意味、意図を考慮し、削減のみが先行することのないように気をつけてほしい。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行予定。コロナで変更した活動をどのような形にしていくのか、活動の価値を再認識し、変更か、元に戻すのか、これについても職員で共通理解を図ってほしい。

○働き方を工夫し、子供たちへの関わりを充実させていく

職員の皆さんの優しく安心感のある関わりは子供たちからも保護者からも信頼されていると感じる。働き方については担任教諭が行う仕事は年々減ってきている。

様々な仕事への準備等にかかる時間は各自異なる。熱心なあまり時間がかかることもあるが、時間を守る意識は必要である。

自身で休養と仕事の切り替えを行い、気持ちに余裕をもって子供たちの前に立ちたい。それが何より子どもたち一人一人を大切にしていくことになる。

健康と心の余裕が、子供たちとの関わりを深め、それが保育の質を向上させ、保育の充実へとつながっていくことになるのだと思う。

○教育水準向上支援事業について

今年度も東京都の「私立幼稚園教育水準向上支援事業補助」を利用して、外国人講師による「英語遊び・活動」を導入した。また Hammond を購入し、年中組が取り組む音楽遊びや発表会での音楽演奏等で活用した。

英語活動・指導は年長・年中組は月に1回～2回、年少組・こぐま組は秋から月に1回、楽しみながら英語に親しんでいる。講師のマーチン先生はユーモアあふれる人柄で、子供たちからも大人気。抵抗なく英語に親しむことができる。自分から進んで挨拶できる子も増えた。

小学校においても英語が教科制となり、就学前から英語に慣れ親しみ、「英語大好き」と思える環境があることは何より喜ばしい。また、各学級においても英語での学びを日常化することで楽しみながら定着を図っている。朝の会で今日の天気を英語で「イツ サニー！」と表現したり、「ワン・ツー・スリー」と欠席した友だちを数えたり、英語を自然と親しむことができている点が素晴らしい。

他に、年中組は週に1回、音楽遊びを音楽講師の先生といっしょに行った。Hammond（電子キーボード）を導入し、Hammondが奏でるいろいろな音やリズムに合わせて踊ったり、歌ったりしながら音楽を楽しんでいた。音楽に対して、より一層、興味関心をもつ子どもたちが増えた。発表会ではこのHammondを利用することで、多様なパフォーマンスが可能となる。音楽劇、楽器遊びなど、より幅が広がり、子供たちが生き生きと音楽に楽しむ様子があった。